

ハクビシンの千葉市への移入

落合啓二・浅田正彦

千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2

E-mail: ochiai@chiba-muse.or.jp

要 旨 これまで生息が確認されていなかった千葉市内において、1998～2001年にハクビシン *Paguma larvata* の生息情報が7件（死体目撃6件、生体目撃1件）得られた。2001年5月には千葉県立中央博物館から数100mの位置にある千葉大学医学部附属病院の構内でも死体が回収され、当館周辺で本種が定着する可能性が高まった。

キーワード: ハクビシン, *Paguma larvata*, 移入種, 分布, 千葉市.

ハクビシン *Paguma larvata* は食肉目ジャコウネコ科の哺乳類で、中国南東部、台湾、東南アジア、カシミール地方などに分布する (Schliemann, 1990). 日本では移入種と考えられており (鳥居, 1989), 1930～1940年代に香川県や静岡県で初めて捕獲された (那波, 1965; 中村ほか, 1989). その後、本種は分布を拡大させ、現在では福井県以北の本州 (青森県、岩手県を除く) と四国4県に生息するようになった (鳥居, 1996).

千葉県では1987年に大原町で死体が初確認され、1997年時点では北は佐原市、印旛村、流山市から、南は館山市、白浜町までの広い範囲に分布していた (落合, 1998). この時点では県内28市町村での生息が確認されたが、千葉市内の生息情報は得られなかった。また、これに先立つ1993～1994年に千葉市全域を対象とした哺乳類相調査が行われたが、この調査でもハクビシンの生息は確認されなかった (浅田, 1996). しかし、1998年以降、千葉市内でハクビシンの死体・生体の目撃情報が相次ぐようになり、最近では千葉県立中央博物館から数100mの位置にある千葉大学医学部附属病院の構内でも死体が回収された。そのため、近い将来、当博物館が含まれる県立青葉の森公園や博物館本館に隣接する生態園でハクビシンが確認される可能性が高まってきた。本報告では千葉県のハクビシンの分布に関する基礎資料の一つとして、新たに生息が確認されるようになった千葉市内での生息情報のとりまとめを行った。

方 法

千葉県立中央博物館では1987年より千葉県内に生息するハクビシンの生息情報を恒常的に収集している。このうち、千葉市内で生息情報が得られ始めた1998年から2001年12月の間に収集された千葉市内でのハクビシンの生息情報をとりまとめた。今回と

りまとめた生息情報は、1例を除きすべて死体ないし写真が著者らによって確認されたものである。残りの1例も野生動物の研究者からの情報提供であり、タヌキ、アナグマ等の類似種との混同の恐れはない。回収された死体については、性別の確認、体重の測定、月齢の推定を行った。月齢は乳歯・永久歯の萌出状況 (中西・羽山, 1996) に基づき、次の4区分の推定を行った: 6か月齢以下 (m4及びすべての永久歯が未萌出), 5～11か月齢 (m4が萌出済み、すべての永久歯が未萌出), 9～18か月齢 (M1が萌出済み、M2が未萌出), 18か月齢以上 (M2が萌出済み)。

結 果

1998～2001年に千葉市内で7件の生息情報が得られた (表1, 図1). 1998～1999年の4件は若葉区と緑区での情報だったが、2000年11月には中央区仁戸名町 (千葉県衛生研究所の構内), 2001年5月には中央区亥鼻 (千葉大学医学部附属病院の構内) と、市中心部により近い地域で確認されるようになった。死体が回収された5頭はすべてオスであった。5頭のうち1頭だけが永久歯の生えそろった18か月齢以上の個体であり、残りの4頭は18か月齢以下の若齢個体であった。

考 察

千葉市内で死体が回収されたハクビシンは若齢個体のオスが多かった。ハクビシンの分散特性は明らかでないが、多くの哺乳類では若齢個体の分散はメスよりもオスに偏って生じる (Greenwood, 1980). 千葉市内でオス、特に分散傾向の強い若いオスの死体回収例が多かったことは、この地域が分布の最前線であることと関係していると考えられた。

1997年時点では、千葉市周辺のハクビシンの生息情報は、千葉市の北西側 (船橋市)、北側 (佐倉市) 及

表 1. 千葉市におけるハクビシンの生息情報.

年月日	場 所	メッシュ 番号*	情報の内容	性別	体重 (kg)	推定 月齢**	標本番号***
1998/3/13	若葉区大草町	3475	衰弱個体を保護したが、 3 日後に死亡した.	オス	1.7	5~11 か月	CBM-ZZ-2652
1998/7/6	緑区大金沢町	3954	死体を回収した.	オス	3.3	9~18 か月	CBM-ZZ-2655
1998/9/22	若葉区小倉町	3443	死体を回収した.	オス	1.3	5~11 か月	CBM-ZZ-2658
1999/11/28	若葉区千城台北 2 丁目	3455	人家の庭のカキノキの実を 食べに出没するのが目撃, 写真撮影された. 朝日新聞 (1999/12/10)	不明	不明	不明	—
2000/11/27	中央区仁戸名町	3903	千葉県衛生研究所の構内で 死体を回収した.	オス	4.7	18 か月 以上	CBM-ZZ-3846
2001/5/10	中央区亥鼻	3471	千葉大学医学部附属病院の 構内で死体を回収した.	オス	2.5	9~18 か月	CBM-ZZ-3867
2001/7/31	若葉区金親町	3466	死体を目撃した.	不明	不明	不明	—

* 千葉県メッシュマップ（千葉県立中央博物館，1990）による。

** 乳歯・永久歯の萌出状況（中西・羽山，1996）による。

*** 回収された死体はすべて千葉県立中央博物館の収蔵標本となっている。

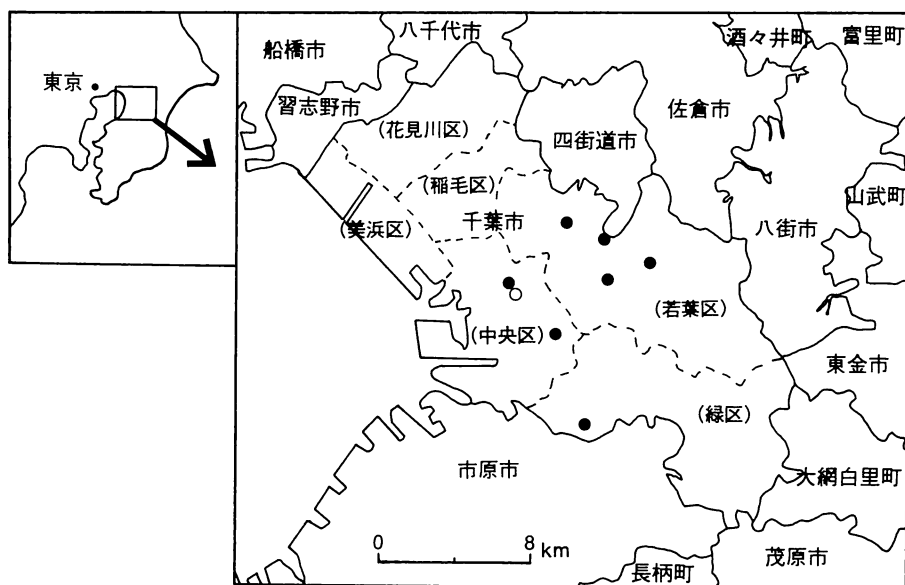


図 1. 千葉市におけるハクビシンの確認地点. 1998~2001 年に得られた 7 件の生息情報を示す (●). ○は千葉県立中央博物館の位置を, 実線は市町界を, 点線は千葉市における区界を示す. 1997 年時点では, 千葉市周辺においては船橋市, 佐倉市, 市原市で生息が確認されていた (落合, 1998).

び南側 (市原市) でそれぞれ得られている (落合, 1998; 図 1 参照). 千葉市内への移入経路は明らかでないが, 今回得られた生息情報の位置からは北側ないし南側から分布が拡大した可能性が示唆された. ハクビシンは旺盛な生活力を有し, 生息範囲を市街地にも拡大させ得る能力を持つ (中村・石原, 1992; 落合, 1998). 中央博物館周辺では小面積ながら残存緑地が

点在し, ノウサギ, タヌキ, イタチの 3 種の中型哺乳類が生息する (今関ほか, 1994; 金城ほか, 2000). このような地域はハクビシンにとっても生息可能と推察され, 既に生息情報が得られ始めた中央博物館周辺で今後本種が定着する可能性が考えられた. 食肉目に属するハクビシン, タヌキ, イタチの 3 種はいずれも雑食性であり, 食性が重複する. そのため, 中央博物館

周辺にハクビシンが移入・定着した場合、食物の競合を通して在来種であるタヌキとイタチの生息に影響が生じる可能性がある。また、ハクビシンは液果を中心とした多くの植物種と、軟体類から哺乳類まで多岐に渡る動物種を食する（長野県教育委員会・（財）日本野生生物研究センター、1985; Torii, 1986; 鳥居・手塚, 1996）。このなかで千葉県ではタヌキやイタチがあまり食さない陸生貝類が最も多く食されていた（落合, 印刷中）。そのため、中央博物館周辺にハクビシンが移入・定着した場合、陸生貝類などハクビシンの捕食対象種の生息状況が生態園内において変化する可能性が考えられた。

謝 辞

角田 隆氏（当時、千葉県衛生研究所）、富谷健三氏（千葉県森林研究センター）をはじめ、ハクビシンの生息情報を寄せていただいた方々に感謝申しあげる。

引用文献

- 浅田正彦. 1996. 千葉市の哺乳類—谷津田の分断・縮小化が与える影響—. In 千葉自然環境調査会(編), 千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告書, pp. 413-424. 千葉市環境衛生局環境部.
- 千葉県立中央博物館. 1990. 千葉県メッシュマップ. 77 pp. 古今書院, 東京.
- Greenwood, P. J. 1980. Mating systems, philopatry and dispersal in birds and mammals. *Animal Behaviour* 28: 1140-1162.
- 今関真由美・山口 剛・落合啓二. 1994. 生態園及び周辺地域における哺乳類の生息状況. 千葉中央博自然誌研究報告特別号 1: 205-214.
- 金城芳典・落合啓二・浅田正彦・松本宗之. 2000. 千葉市の都市公園におけるタヌキの生息地利用. 千葉中央博自然誌研究報告 6(1): 77-86.
- 長野県教育委員会・（財）日本野生生物研究センター. 1985. 昭和 59 年度長野県天然記念物ハクビシン調査報告書. 18 pp. 長野県教育委員会.
- 中村一恵・石原龍雄・坂本堅五・山口佳秀. 1989. 神奈川県におけるハクビシンの生息状況と同種の日本における由来について. 神奈川自然誌資料 (10): 33-41.
- 中村一恵・石原龍雄. 1992. 神奈川県におけるハクビシンの生息状況（補遺 2）. 神奈川自然誌資料 (13): 1-6.
- 中西せつ子・羽山伸一. 1996. 飼育下におけるハクビシ

- シンの成長、性成熟、出産. In 静岡県ハクビシン調査報告書, pp. 33-39. 静岡県生活・文化部自然保護課.
- 那波昭義. 1965. 静岡県下のハクビシンについて. 哺乳学誌 2(4): 99-105.
- 落合啓二. 1998. 千葉県におけるハクビシンの分布と移入経路. 千葉中央博自然誌研究報告 5(1): 51-54.
- 落合啓二. (印刷中) ネコ目（食肉目）. In (財)千葉県史料研究財団(編), 千葉県の自然誌本編 6 千葉県の動物 1 一陸と淡水の動物一. 千葉県.
- Schliemann, H. 1990. Viverrids. In Grzimek, B. (ed.), *Encyclopedia mammals* vol. 3, pp. 510-545. McGraw-Hill Publishing Company, New York.
- Torii, H. 1986. Food habits of the masked palm civet, *Paguma larvata* Hamilton-Smith. *J. Mamm. Soc. Japan*. 11(1・2): 39-43.
- 鳥居春己. 1989. 静岡県の哺乳類. 231 pp. 第一法規出版, 東京.
- 鳥居春己. 1996. ハクビシン. In 日高敏隆（監修）, 日本動物大百科 2 哺乳類 II, pp. 136-137. 平凡社, 東京.
- 鳥居春己・手塚牧人. 1996. ハクビシンの糞内容物分析. In 静岡県ハクビシン調査報告書, pp. 8-12. 静岡県生活・文化部自然保護課.

(2002 年 1 月 22 日受理)

Invasion of the Masked Palm Civet, *Paguma larvata*, into Chiba City, Chiba Prefecture, Central Japan

Keiji Ochiai and Masahiko Asada

Natural History Museum and Institute, Chiba
955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8682, Japan
E-mail: ochiai@chiba-muse.or.jp

The Masked Palm Civet, *Paguma larvata*, is an alien species in Japanese fauna. The civet has spread widely its distribution in Japan from 1930's-1940's, and has been recorded in Chiba Prefecture since 1987. Invasion of the civet into Chiba City was newly confirmed based on six bodies and one sighting of live individual in 1998-2001. One body was found at a distance of only several hundreds meters from the Natural History Museum and Institute, Chiba.